

プラント状況確認結果(令和4年2月9日～令和4年2月15日)

令和4年2月16日
福島県原子力安全対策課

令和4年2月9日～令和4年2月15日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

プラント状況(2月15日午前11時)

以下の項目について、実施計画*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら([県HP](#))を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	3.4	1.7 ^{※3}	1.7	—
		压力容器 底部温度(°C)	14.0	21.0	21.0	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm ³)	1.04×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
压力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.05	0.09	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	18.8	18.1	— ^{※4}	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 作業に伴い原子炉注水量を変更しています。安全性に影響はありません。

※4 全燃料取り出し完了により、計測不要です。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(2月15日午前10時)

最小 0.348(MP-6)～最大 1.050(MP-4) μSv/h ⇒[計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(2月14日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約0.67 Bq/L(物揚場前)

～最大 1.7 Bq/L(遮水壁前)

⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(2月14日採取分)

5、6号機放水口北側：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.66 Bq/L

南放水口付近：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.53 Bq/L

⇒[計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら([東京電力HP](#))を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(2月11日採取分)

最小 検出限界値未満 ※検出限界値は約 6.5Bq/L (4号機)
～ 最大 5700 Bq/L (2号機)

トラブルの概要 (令和4年2月9日～令和4年2月15日)

この一週間におけるトラブル等について、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■ 協力企業作業員における負傷者の発生について(続報)

2月7日午前9時10分頃、2号機原子炉建屋西側構台前室内において発生しました負傷者について、その後の状況をお知らせします。

当該負傷者については、南相馬市立総合病院にて診断の結果、「右環指末節骨開放骨折」と診断されました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ サブドレン他浄化設備自動停止について(続報)

2月7日午前6時54分頃、サブドレン他浄化設備において警報が発生し、浄化運転が自動停止したことについて、その後の状況をお知らせします。

サブドレン他浄化設備の現場確認を実施した結果、系統内に溜まっていたエアが影響を与えたことが原因であると推定しました。

その後、サブドレン他浄化設備の系統内のエア抜きを行った後、浄化運転を開始し、当該設備の動作に問題がないことを確認したことから、午後2時38分に運転状態に異常がないことを確認しました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) ご覧ください。

■ 陸側遮水壁設備ブライントクの水位低下について

本日(2月15日)午前10時40分頃、ブライン配管電動弁追設工事のため陸側遮水壁設備を停止したところブライントクの水位が低下していることを当社社員が発見しました。

状況は以下のとおりです。

- ・発生場所 陸側遮水壁ブライントク
- ・設備名称 陸側遮水壁設備
- ・設備の状況 陸側遮水壁ブライントクの水位が低下
- ・応急処置 午前11時00分頃、ブライントクからブラインを陸側遮水壁へ送り出す弁を閉操作したところ水位低下は停止した。

・外部への影響 なし

プラントパラメータ、モニタリングポストの指示に異常なし。

設備が停止しても陸側遮水壁が溶け始めるまでには数ヶ月程度の期間があることから直ちに陸側遮水壁に影響が出るものではないと評価しております。

現場調査の結果、2系統のうちの1系統の凍結ラインで、2・3号機間山側道路横断部の下部において、陸側遮水壁設備の配管よりブラインが漏えいしていることを午後4時00分に確認しました。漏えいは継続しており、現在止水方法を検討しております。

なお、ブラインは汚染しておらず、環境影響もありません。

また、ブラインタンクの水位低下が確認されていない系統については午後4時8分に運転を再開しました。

これまで、陸側遮水壁廻りの地中温度に有意な変動は確認されておられません。

なお、本日予定していたブライン配管電動弁追設工事の電動弁動作試験を中止します。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) [\(3\)](#) ご覧ください。

* 実施計画及び監視項目に関する解説

○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm³以下であることが定められています。

○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）